二十六日　父君らと品川へ行く馬車氣車に乘りし外悉く歩む總てにて今日は二十五六町は歩みしならん。

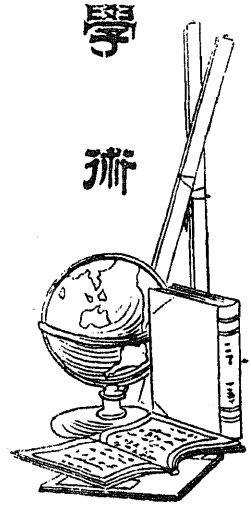
實に足は達者にて家に歸りても疲れしさま見えず道に人力車に逢ひても乘ろうなど云ひし事なし。

九月八日　麹町の親戚へ行き泊れと云はれしも泊らず家に歸へりて今度父様が連れてゆくから泊てお出と云ひしに承知しソレナラ父様が歸へる時泣きはしまいねと念を押せしにイヽエ父様がお歸へり成さる時は私も一所に歸へるのよ。

十九日　緣日にて金色の指わを買て頂き金の指わ母様のと同じだとて大喜びす。

父「坊やゝお母さんの名は何といふの？

子「オイといふ名とコラといふのと



不思議の德利

關本幸太郎

打出の槌といへば皆さん御存じの昔話にあることですが、明治の今日にでも、之に似寄ったことを手品師がよくいたします。それは外でもありません。一つの德利の中から茶を出したり、水を出したり、牛乳でも、御酒でも御望み次第のものを出します。實に奇妙不思議の至りに思はれる。が、世の中におばけはありませんと同じ事で理屈に合

はないものは無い。彼の德利もちやんと種仕掛けがあるのです。そろ〳〵其秘密をあばく事にいたしませう。

が、不思議の德利の種を明かす前に皆さんに存じて置いていたゝかねはならぬ事かあります。先づそれを述べませう。

筆の毛の拔けた軸でも、硝子の管でもよい、兎に角、細い管の兩端が開いて居るものを水の中に立て、指頭で上の口を押えて之を水の中から引き出すと、管中の水は出ないで附いて來る。上の口をあけるとすぐ水は管の中から出てしまう。これはどーか試めして見ていたゞきたいのです。

指で上の口を蓋うて居る間何故水は落ちないか又指をはなして上の口を開くとなぜ、すぐ落ちるかといふに、空氣がすべての物を四方八方から押して居るからである。指が上の口を押えて居る間は空氣は管中の水を下から上へ押し上げる事は出來るが、指が邪魔をして居るから上から下へ押しさげる事は出來ない。つまり押し上げられて居るから落ちないのです。けれども上の口を開くと、空氣は上からも下からも水を押します。其の押し合ふ兩方の力は同し强さですから水は其爲めに動かないが自分の重みで下へ落ちるのです。

して見ると、管が曲つて居つても、中の方でふくらんで居てもよいわけである。即ち甲圖の如きものを作つて中に水を入れ、（ロの口を指でふさいで置いて、これを倒にしても）（イより水は出ない、若し）（ロの口を明けて倒にすれば水は直ちに出だすにき

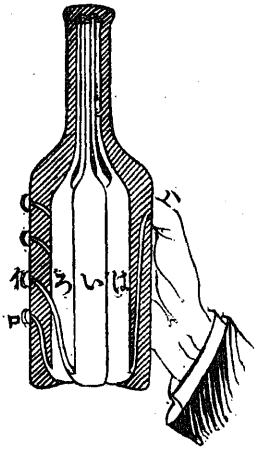
甲圖

まつて居る、勿論（イの口は細くなくてはいけませぬ。之が不思議の德利の種になるのです。

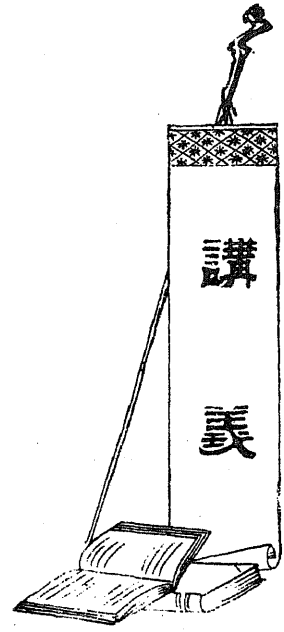
不思議の德利をよく見ますと、外側に乙圖で示す樣な小さい穴があいて居ます。手品師は此孔を指で押えて居るからわからないけれど、自分の手に取つて調べるとよくわかります。又此德利の中を割つて見ますと、小さい德利がいくつも入れてありまして、皆細長い頸を持つて居るばかりでなく、又底から細い管を出し、其の口は皆な乙圖で示した外側の小孔に通して居りますこと丙圖の樣であります。つまり、甲圖で示した樣な小さい德利がいくつも不思議の德利の中に入れてあるのです。今（いには水、ろには茶、はには牛乳を入れて置いて圖の樣に外の穴を確と指で押さえて居ります。

乙圖

丙圖



扨て水を下さいといへば手品師先生大得意になつて不思議の德利を傾け、そっと（イの指だけをゆるめるのです。そーすると水だけが出ます。若し又茶の催促に遇うといふと不思議の德利を傾けてから、そっと（ロの指だけをゆるめるのです。すると茶ばかり出ます。こんな工合ですから、どの指をゆるめると何が出るかをよく覺えて置きますと、觀客の望みにまかせて色々の液体を出すことが出來ます、若し指のゆるめ方をまちがへるとそれこそ大變、手品師大失敗を演するのです。



兒童研究法

文學士　松本孝次郎

嗅覺

此感覺は、何時からあるといふたしかな說はありませんせん、たとへば、寢て居る兒の鼻の所にはふものを置いても感じない、又たま〳〵鼻を動かしても、偶然でとにかく實驗しても好結果がありません。クスモール氏も之は研究したけれども分らぬと言はれました。

嗅覺の研究上注意すべき事

香に對する感情を試驗するがために、哺乳器の乳房の上に善き香のもの、又は惡しき香のものを置き、之に由て小兒が之を嫌ふや否やを觀察すべし。

惡しき香に對して、之を除去せんとするの運動は何時頃より始まるや又睡眠中にてもかゝることあるか。

惡しき香のものは、不快なる顏容を呈さしむることなきもなほ小兒をして泣叫せしむることなきか何時頃より明に嗅覺の存することを認め得るか。

幼兒は暗室の中にありて單に香の感覺のみによりてその母親と他人とを辨明し得るか。

味覺

胎兒である間は、其養分が母體から直に兒體に入りますから胎兒中には味覺はありません。

クスモール氏は生れたる直に味覺かあるといはれ